



日記が綴る史実 ～明治期・有田の様相～

新しい年が始まってすでに2ヶ月がたとうとしていますが、皆さまは日記なるものを付けていらっしゃるでしょうか？最近では3年日記、5年日記、さらには10年日記など過去の出来事などが一目で確認できるような便利なものがあるようですが、日記の効用は恐らくそれも一つとして挙げられるのではないのでしょうか。

当館には個人から提供いただいた日記や手記があります。これらの記録には、今まで確認できなかった町の事柄なども記載されており、本来個人的な日記が私的なものでは終わらずに、公的な資料の一つである有田町役場日誌を補完する貴重な存在となっています。

以前、何度か紹介したことがある99歳で亡くなったお産婆さんの古賀トヨさんは大正11年から亡くなる寸前まで、ほぼ毎日のように日記を書き続け、大正から昭和までの有田で生きた女性の目から見た歴史の側面が記されています。

今回、福岡市在住の山下哲さんから、先祖である山下勘太郎（勘太とも、号桃溪）さんが残した日記「山下桃溪遺墨集」を提供いただきました。そこには明治



山下桃溪遺墨集

20年代から30年代の有田や佐賀市の様子が記されていました。

山下勘太郎さんは明治22年、町村制が施行された折に初代有田町長に就任した平林伊平さんの長女・ナオさんと結婚し、平林家の親族となっていますが、日記からも有田小学校の教師を勤めなが

ら、平林家を縁として有田の業界などとも深く関わっていたことがわかります。

例えば、明治19年6月14日付けの日記には「早朝会議所に赴き陶磁業組合規則に関する議案数本を写し、正午飯し畢り蒼黄旅装をなし有志諸氏（川原、平林、田代、藤井、辻其他該工業家商売若干人）に伴い佐賀に赴く」とあり、これは同年に設立された有田窯焼工業会の事と思われます。

また、周囲で起きた事柄についても筆を進めていて、例えば、明治20年1月4日に有田を訪問した森有礼文部大臣一行が石場、精磁会社の次に小学校を訪れ、子どもたちの体操の授業を視察したことや、数十名の随行員の宿の割り当ても詳しく記録しています。

さらに、森文部大臣の歓迎を示す有田人の心意気は、同じように同年2月24日に有田を訪問した鍋島直大一行50名に対しても行われ、「市街一面陶沙（白砂）を敷き各種の彩色を以て繡章を施し」とあり、唐臼で陶石を砕く際に出る白砂を街路に巻き、さらに色付けするという特別の日を演出しています。

同年7月1日には雨の中、精磁会社の蒸気器械設置の竣工式が行われ、そこには山本農商務省技師や鎌田景弼県知事などが列席しています。そのお祝いとして煙火（花火）を打ち上げる予定が雨で3日に延期されましたが、それはあたかも「明月昼の如し」とあってさぞかしきれいな花火が皿山に上がったものと思われます。佐賀市では明治21年7月15日に米国神学博士フルベツキが行った耶蘇演説を聞いています。

これらの記録は、私的な記録にとどまらず、歴史上の出来事について市井の人々がどのような思いを持っていたか、またどんな関わり方をしたかなどがわかる側面史の役割を果たしています。（尾崎 葉子）



平林伊平彫像（松尾仁作）

皿山

季刊

No.105

春
2015

有田町歴史民俗資料館・館報

有田異人館、復原修理へ

有田町教育委員会では、平成 26 年度から佐賀県重要文化財・有田異人館の復原修理事業に取り組んでいます。事業を進めていくなかで、文化財建造物としての価値を担保しつつ、復原修理の方向性や修理後の活用について幅広く検討するために「修理活用検討委員会」を設置しています。委員の方は、文化財建造物の復原・修理などに携わる大学の先生や地元住民の方などをお願いしていますが、委員の意見を反映させながら、有田町教育委員会では、歴史的な有田の町の情報発信や観光拠点としての活用を目指しています。

今回の館報では、建物のことやこれまで取り組んできた事業の内容、そして、今後の予定などについてご紹介します。
(池田 孝)

Q1. 有田町・幸平に建っている「有田異人館」という建物の復原修理を行っていると聞いたのですが、そもそも「異人館」とは何ですか？

A1. 有田町で陶磁器の貿易をしていた田代助作たしろすけさくさんが、陶磁器の買い付けに訪れた外国人の宿泊や接待をする建物として明治9年に建てたもので、外国人向けに西洋風に造られた、佐賀県で最も古い洋風建築です。当時、外国人のことを「異人」と呼んでいたことから「いじんのやかた」「いじんかん」と呼ばれるようになりました。昭和52年に有田焼の歴史を伝える貴重な建造物として佐賀県重要文化財に指定されるときも「有田異人館」の名称となりました。

Q2. どんな建物ですか？

A2. 現在、建物内部を少しずつ解体しながら、「どんな材料が使われているのか」や、「改造された部分は元々どんな形だったのか」を調べているところです。まだ調査の途中ですが、長崎の出島にある洋風建築とよく似た造りであることが解ってきました。

当時、田代助作さんは、ヨーロッパの人たちと貿易するため、長崎の出島をよく訪れていたようです。そこで見た、異人が暮らす住宅を参考にし、この有田異人館を造ったようです。



建物内部を一部解体し、痕跡調査を実施

Q3. 具体的には、どんなことが解ってきたのですか？

A3. 今も異人館の窓には、赤青緑のステンドグラスが残っていて、洋風建築の特徴を残していますが、その一方で、室内の天井や壁には、家紋をすり込んだ和紙が貼られ、また床は畳敷きで、そこにテーブルと椅子を並べて使っていたことが解ってきました。

「畳と和紙」に「ステンドグラスとテーブル」だと、現代の感覚では「ミスマッチ」ですが、明治初め頃の日本の洋風住宅は、このような使い方をしており、実際に長崎出島のオランダ人の住宅も同じような造りになっています。

Q4. いつまで「異人館」として使われていたのですか？

A4. 記録によれば、大正時代まで接待所として使われていたようです。その後は、住宅として使うために、昭和4年、昭和11年、昭和38年の3回増改築を行なって現在の姿になっています。この昭和時代の増改築で、建築当初に比べると約2倍の大きさになっています。

前面道路の拡幅工事前の姿
(昭和30年代頃)

田代家提供

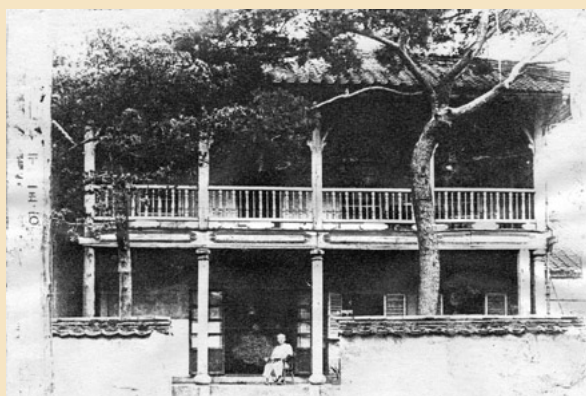




現在の有田異人館

Q5. 今行っている復原修理はどういうことをするのですか？

A5. まだ検討中のところもありますが、文化財建造物として最も価値が高い建築当初（明治9年）の姿に甦えさせたいと考えています。そのため、今回の復原修理では、昭和時代に付け足された部分を取り外し、改造で失われた部分を元に戻し、外観・室内ともに「異人館」らしい姿に復原することになりそうです。これにより、建物は小さくなりますが、その分、「かわいらしい洋風建物になるのでは」と期待しています。



建築当初に近い姿（大正頃）『松浦大鑑』より

Q6. 完成はいつごろですか？

A6. 有田焼創業400年を迎える平成28年10月頃の完成を目指しています。しかし、姿・形が変わるような新発見が相次いだりして、計画どおりに行かないのも文化財建造物を復原修理するときの特徴です。遅れるのは困るけど、新発見にも期待したい、というのが正直な気持ちです。

有田町教育委員会では、修理途中での一般公開も計画したいと思っています。



日本磁器誕生・有田焼創業400年

れきみん応援団活動報告

発足してから間もなく2年を迎えようとしているれきみん応援団ですが、今年度も多くの支援を頂きました。2月現在で79件の支援を行って頂き、昨年度の45件を大きく上回っています。応援団の今年度の活動についてご紹介したいと思います。

①人的支援活動

主に資料館・文化財課の事業への人的補助を行っています。今年度は資料館の展示解説などが11件、夏休み子ども向け講座の準備や当日の講師補助、その他各種のイベント補助などを行って頂きました。

特に大きな支援が企画展での活動です。みなさんの記憶にも新しいと思いますが、今年度の企画展では1000枚の写真を展示しました。その写真の整理や調査、展示用具作成などを行って頂きました。

②学習活動

今年度は支援活動だけでなく、学習活動も行っています。有田の歴史の中で自分が知らないことを学びたい、という応援団員の思いを受けて「れきみん学習会」を毎月1回開催しています。

さらに、11月には博物館ボランティア組織の先進地を訪ね、ボランティアの在り方やボランティア同士の交流を図ろうと、「れきみん応援団研修旅行」を行いました。今回の行き先は福岡県にある九州歴史資料館と九州国立博物館で、他館ボランティアの皆さんによる案内を受け、自分たちの活動をよりよいものにするための素晴らしい体験ができました。

れきみん応援団は、団員の皆さんの「資料館をもっと良くするためにお手伝いをしたい」「有田の歴史を知りたい、自分も何か役に立ちたい」という思いから発足し、私どもはその好意に支えられて事業を行っています。応援団の任期は1年ですが、有難いことに来年度も継続して参加の申し込みを頂いています。来年度も幅広い活動を行い、館の活性化につなげて頂きたいと期待しています。（永井 都）



れきみん応援団研修旅行（九州歴史資料館にて）

文化財防火デー訓練実施しました

毎年1月26日は文化財防火デーに制定され、全国各地で貴重な文化財を災害から守ろうと訓練が実施されています。

有田町でも1月25日(日)、大正14年(1925)に建築された上幸平の小路庵(TOTO五代社長江副孫右衛門さん旧宅)で訓練を実施しました。伊万里・有田消防本部の消防車や、地区の消防団による消火訓練を行い、訓練に参加していただいた関係者や近所の方には消火器を使う体験をしていただきました。

災害が起こらないに越したことはないのですが、万が一発生した場合に落ち付いて対処できるように、また文化財を末長く次の世代に伝えていくための訓練でもありました。



町屋で昔話を聞く会

2月21日(土)、有田町公民館との共催で、「町屋で昔話を聞く会」を開催しました。毎回、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「有田内山」にある町屋をお借りして、有田に残る昔話や絵本の読み聞かせを行っています。今回は昭和初期の町屋である大樽陶山堂さんのお座敷で、読み聞かせボランティア「ひこうせん」のメンバーにお話をして頂きました。

昨年作成した紙芝居「黒髪山の大蛇退治」を始め、歌や「いのち」を考えるお話などを話して頂きましたが、子どもたちはどの話も夢中になって聞いていました。その後は、家屋内に展示されているお雛様や、今では珍しくなった箱階段も見学させて頂き、子供たちにとって楽しく学ぶ事ができた一日になりました。



新

寄贈資料紹介

平成26年度新たに下記の資料を寄贈して頂きました。大切に保存し活用させて頂きたいと思います。ありがとうございました。

池田 兆一様(鳥取県)
寛永通宝の藁差し3本
家紋入り染付皿2枚
照井 一玄様(下本)
サヤ

(大8点小2点計10点)

曲川小学校様(黒川)
曲川村実業青年学校校旗
山澤 健一様(茨城県)

『佐賀県写真帖』
ほか新聞記事類一式
添田 征止様(福岡県)
陶片一式

(岡垣浜漂着物)
金岩 昭夫様(泉山)
統制陶器、磁器製ローラー



藁差し



『佐賀県写真帖』

池田 トヨ様(泉山)
古写真、ポスター
犬塚 光夫様(中の原)
アルバム1点

宮田章一郎様(戸杓)
古写真、秋祭祭礼写真帖
田代 正敏様(大樽)
古文書一式



陶片(岡垣浜漂着物)の一部

季刊『皿山』

通巻105号(平成27年3月1日)
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目4-1
☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185
URL: <http://rekishi.town.arita.saga.jp>